

長谷川 望牧師

- *主イエスは復活の後、ガリラヤへ行き、そこで弟子たちに会う、と女性たちに告げておられた。ガリラヤにいた弟子はヨハネによると7名。「私は漁に行く」と言ったペテロについて皆で舟を出した。元々彼らの多くは漁師であったのと、ガリラヤに帰っても食べていかなければならないので、当然の行為だったと思われる。しかし、その夜は何も獲れなかった。世が明け染めた時、イエスは岸に立っておられ、弟子たちを待っておられた。「イエスは彼らに言われた、『舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。』そこで、彼らは網をおろした。すると、おびたしい魚のために、網を引き上げることができなかった。」(ヨハネ21:6) ヨハネが真っ先にそれが主イエスであることに気が付き、ペテロは上着を着て湖を急いで泳いで渡り、他の弟子たちは船で岸に向かった。弟子たちはすでにこれと同じような場面を経験していた。ルカ5:1~11にあるように、イエスの言われるままに網を下ろすと大量の魚が取れた。「こわがらなくてもよい。これから後、あなたは人間をとるようになるのです。彼らは、舟を陸に着けると、何もかも捨てて、イエスに従った。」(ルカ5:10~11) これは、弟子たちにとって、人生が180度変わるほどの決定的な経験であった。この原体験にイエスは再び彼らを引き戻されたのである。私の信仰の原体験は何だろうか。イエスを救い主キリストと信じてこの方とこれから一生歩んで行こうと決心した時である。人それぞれ違うが皆その体験があるはずである。私たちは愚かなので、すぐその貴重な体験を忘れてしまうことが多いのではないだろうか。しかし、愛である主は私たちに親切に再び、あるいは何回でも同じようなシーンを見せて思い起こさせてくださるのである。
- *弟子たちが陸に上がって最初に見たものは朝のバーベキューであった。おなかがすいているけれども何も食べ物がない弟子たちを気遣ってイエス自ら用意して下さっていたのである。炭火の上には魚があり、パンも置いてあった。パンは最後の晩餐の時、パンと魚は5千人に食べさせた奇跡を思い起こさせる。魚はギリシャ語で「ΙΧΘΥΣ」(イクトウス)であるが、これは、「イエス・キリスト・神の子・救い主」の意味である。すなわち、魚はイエス・キリストを表すシンボルである。主イエスは私たちに生きるのに必要なからだの糧と霊の糧(みことば)を与えてくださる方である。ガリラヤで弟子たちに使命を再確認されたように、私たちも福音を伝える者として召されていることを再確認したい。